

(3) BMS コンソーシアム

H19.4.19	詳細③：BMS コンソーシアム設立総会
H20.5.27	詳細④：BMS コンソーシアム第2回総会
H21.6.12	詳細⑤：BMS コンソーシアム第3回総会
H22.6.9	詳細⑥：BMS コンソーシアム第4回総会
H23.6.10	詳細⑦：BMS コンソーシアム第5回総会

橋梁マネジメントシステム開発普及事業

BMSコンソーシアムの設立主旨

道路施設の維持管理が国土交通省道路局の中期ビジョンの最重要テーマとして取り上げられるなど、今まさに社会資本維持管理の時代に向かって大きく動き始めています。地方自治体においても、橋梁の維持管理に対する本格的な取り組みが始まっています。

橋梁保全事業を適切に行うには、橋梁の設計、施工、材料、点検、LGC評価など幅広い分野にまたがった専門的な知識が不可欠であり、また劣化予測や適切な補修・補強工法を選定するためには、多くのフィールドデータを蓄積して有効活用することが大切である。

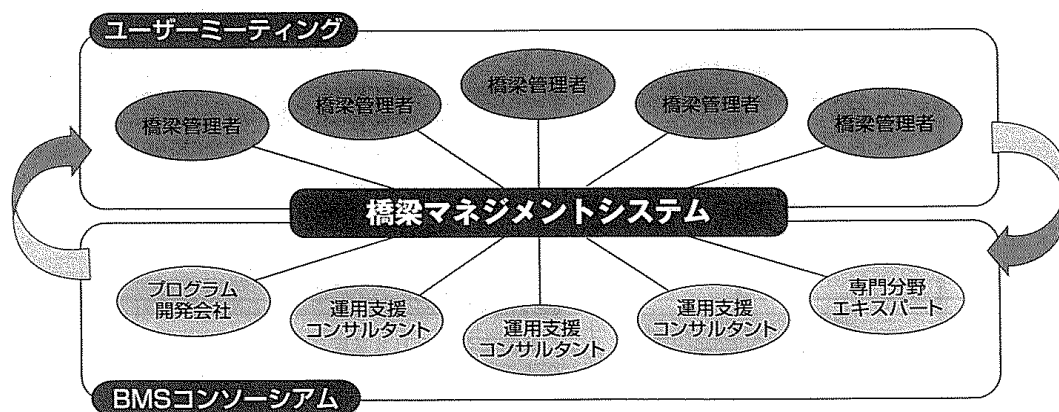
財団法人大阪地域計画研究所(RPI)は、多くの橋梁管理者が共同で使用できる橋梁マネジメントシステム(BMS)を開発し、同時にシステムの運用を支援する技術者集団(BMSコンソーシアム)を組織して、効率的な橋梁の維持管理を支援する事業に取り組むことになりました。

財団法人大阪地域計画研究所
理事長 渡邊 英一

システムの運用体制

システム構築にあたっては、橋梁保全に関する膨大な量のデータの収集・解析が必要なことは言うまでもありませんが、システム運用にあたっては、継続的なデータの蓄積・更新が欠かせません。

そのためのシステム運用体制の構築は非常に大切です。そこで、橋梁管理者間の情報共有の仕組み（ユーザーミーティング）と、システムの運用支援体制（BMSコンソーシアム）作りを、システム開発と並行して行います。

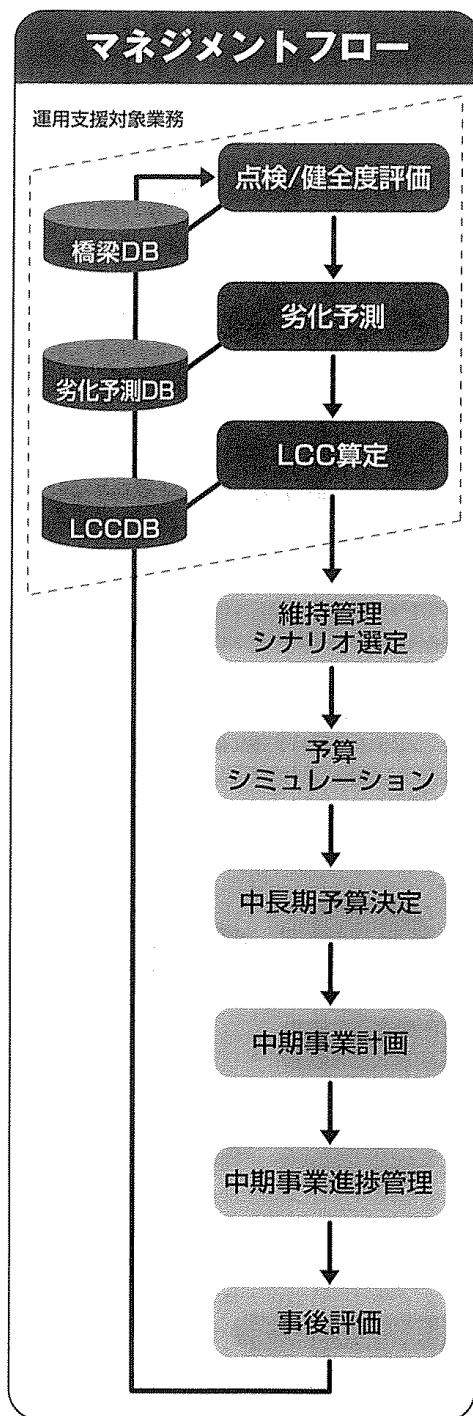


ユーザーミーティングとは

ユーザーミーティングは、橋梁管理者間の情報共有の場です。劣化予測、効果的な対策工法・材料、対策後の再劣化現象など、まだまだメンテナンス情報は不足しています。同一システム、同一指標を使用しているので、容易に情報共有の促進が図れます。

BMSコンソーシアムとは

BMSコンソーシアムは、システム運用を支援する技術者集団です。運用支援コンサルタント、プログラム開発会社および専門分野エキスパートが、それぞれの得意分野で、BMSの運用を支援します。また、ユーザーミーティングの要望に応え、BMSの改良・精度向上に努めます。



システムの特徴

点検から事後評価まで一貫して支援するBMSです

点検、劣化予測、LCC算定、重要度評価、維持管理方針設定、予算シミュレーション（平準化）、中長期予算計画策定、中期維持管理計画策定、維持管理業務の進捗管理、事後評価（フィードバック）といった橋梁維持管理に必要な全業務を支援する橋梁マネジメントシステムです。

地域特性に合わせたカスタマイズが可能です

劣化予測データ、LCC算定データ、維持管理シナリオ設定など、地域特性にあわせたデータ入力によって、システムを変更しないでカスタマイズすることができます。

点検データの蓄積で劣化予測式の精度が向上します

点検データを反映させて、劣化予測式を自動修正する方式を採用しています。また、点検データの蓄積により劣化予測式の精度が向上します。これらの方法によって、地域特性を反映させた劣化予測式のカスタマイズができます。

点検支援システムを活用して点検コストを削減できます

点検データを現場でモバイルPCに直接入力する点検支援システムの活用により、点検作業の効率化と高度化を同時に達成しました。国土交通省橋梁定期点検要領（案）に準拠した点検調書の自動作成が可能であり、点検作業を充実させながら点検コストを削減できます。

重要度・優先度を反映させた維持管理シナリオ設定

維持管理シナリオの設定により、橋梁の重要度・優先度評価に基づく維持管理ができます。また、維持管理シナリオのカスタマイズにより、地域特性を反映させた維持管理計画を立案できます。

アカウンタビリティが向上します

維持管理シナリオを全ての橋梁に設定することによって、全橋梁の維持管理方針を利用者や納税者に明確に説明できます。

システム維持費を大幅削減できます

多くの橋梁管理者がシステムを共同で使用することにより、システム開発費・維持費を大幅に削減できます。



財団法人 大阪地域計画研究所
Regional Planning Institute

RPI東京事務所

〒162-0065 東京都新宿区住吉町1番20号角張ビル5階
TEL/FAX 03-5379-0815
E-MAIL conso@rpi.or.jp
URL <http://www.rpi.or.jp>

2007 年 4 月 19 日

R P I (財団法人大阪地域計画研究所)
BMS コンソーシアム事務局

BMS コンソーシアム設立総会プログラム

司会：竹田哲夫 R P I 東京サテライトオフィス事務局長

13:30～13:40	BMS コンソーシアム代表挨拶	R P I 理事長 BMS コンソーシアム代表 渡邊 英一
13:40～13:50	会員紹介	BMS コンソーシアム会員
13:50～14:05	BMS コンソーシアム規約・ 運営体制・組織説明	R P I 担当理事 金氏 眞
14:05～14:10	技術顧問紹介	BMS コンソーシアム事務局長 竹田 哲夫
14:10～14:15	普及委員会活動計画	普及委員長 佐藤 典夫
14:15～14:20	技術委員会活動計画	技術委員長 徳山 清治
14:20～14:25	休憩	
14:25～14:55	基調講演 「青森県における橋梁アセットマネジメント実施状況と展望」 青森県県土整備部 元アセットマネジメント推進 チームリーダー 山本 昇	
14:55～15:00	閉会挨拶	R P I 担当理事 藤田 耕治

以上

平成 19 年 4 月 19 日

ご 挨拶

本日は皆様方大変ご多忙のところご R P I の B M S コンソーシアム設立総会にご出席を頂きありがとうございました。理事長の渡邊でございます。

私ども財団法人大阪地域研究所（R P I）のご紹介ですが、当財団は昭和 51 年に財団法人大阪地域計画技術センターという名称で設立が許可され動物学者の宮地傳三郎が初代理事長に就任したのが始まりです。

新しい時代にふさわしい環境及び安全を視野に入れた都市的機能向上と地域社会づくりの条件整備について、科学的調査研究、及び基礎的な技術開発を行い、地域における諸計画づくりに諸種の提言を行うことなどによって、地域の発展と社会の向上に寄与することを目的とするものです。

私自身は素人みたいなもので、必ずしもこのような社会資本の維持管理に関しましては従来関わりが多くはありませんでしたが、平成 14 年 6 月に国土交通省が設置されました「道路構造物の今後の管理・更新のあり方に関する検討委員会」に参画の機会を頂きましてから、社会資本のアセットマネジメントを考えるさまざまなプロジェクトに本格的に携わる機会を得ることができました。それらの機会を通じて、様々な地方自治体の置かれている状況を理解することができましたが、東京都・大阪府などの大きな自治体を除くと、多くの自治体では専門分野の技術者を育成する仕組みがなくなっていることを知り愕然としたものです。

R P I では「まずは専門の橋梁からはじめよう」ということで、ブリッジマネジメント研究会を発足させ、関西大学の古田均教授に当研究会の会長を引き受けていただきました。この研究会の目的は、技術スタッフの充実面で万全とはいえない自治体に参加を呼びかけ、大学等の研究者、民間エンジニアにも広く集まって頂き、橋梁維持管理に関わる情報の共有化を促進しようというものです。財政的にとても豊かとは言えない財団が手がける事業ですから、ボランティア活動の域を出ませんが、地方自治体には生きた教材とも言うべきフィールド（橋梁）がありますので、そのフィールドとフィールドデータをご提供頂ければ、大学研究者や民間企業との共同研究等により情報共有が促進できるのではないかと考えております。

なぜ B M S コンソーシアムを設立するのかということをご説明します。全国の多くの自治体でアセットマネジメントに関する勉強（委員会）が始まっていますが、ア

セットマネジメントの意義の理解程度までは大多数の人が辿り着けるのですが、実務に使えるマネジメントシステムを構築するとなると、とても一自治体の手に負えるものではありません。また、よしんばシステム構築までは辿り着いたとしてもその維持管理となるととても大変で、ほとんどの自治体がそこで逡巡し、動きが停止してしまうというのが現状ではないでしょうか。例えば自治体の職員がその仕事の一部として維持管理の実務に就き、そしてその業務の交代と継承も長期間にわたり安定して行うシステムの構築が要求され、これは並大抵の努力では達成できません。そこで自治体レベルで汎用性をもって使えるものがあればありがたい、という声を耳にするにつれ、マネジメントシステムも自治体が共有できるものを作り上げる必要があると存じます。

そこで、多くの自治体が共同で使うことができ、また多くの民間エンジニア（コンサルタント）がシステムの運用支援という立場で参加できる仕組みを立ち上げるようにとの希望が少なくありません。そこでこのようなシステム導入とその長期的アップデートに関しましても私どものR P Iコンソーシアムがご協力できるのではないかと考えております。国全体としては、高速道路、国道、地方道とそれぞれの重要性の違いがありますが、その違いに応じて維持管理の手法も異なってくることは重々存じております。そこで、特に、地方道、中でも技術スタッフの手薄な自治体が管理する地方道の維持管理に焦点を当てた支援活動を展開致したく存じています。先日発表された中期ビジョンや平成 19 年度予算概算要求を拝見しますと、地方道に対しても国の援助の手が差し伸べられる情勢にあるように思えます。私どもの活動も、国の大方針に沿った形で、地味ではありますが草の根運動のような位置づけでお役に立ちたいと考えております。

アメリカ合衆国において“America in ruins”のキャンペーンが行われたように、これから茅野さんが中心となって「荒廃する日本としないために」という更なるキャンペーンを展開されると伺いました。私どもR P Iの活動も、その一翼を担うことができれば幸いです。

皆様方のご健勝をお祈りするとともに、R P IのBMSコンソーシアムの活動に対して今後ともご支援とご理解、ご協力を切にお願いする次第です。以上をもちまして私のごあいさつに替えさせていただきます。

財団法人 大阪地域計画研究所
理事長 渡邊 英一

詳細③：BMS コンソーシアム第2回総会

(財) 大阪地域計画研究所 (RPI)
BMSコンソーシアム第2回総会

日：平成 20 年 5 月 27 日 (火)

会場：弘済会館 「櫻の間」 4 階

プログラム：

13:30～	(受付開始)		
14:00～14:10	開会のあいさつ	RPI 理事長	渡邊英一
14:10～14:30	BMS を取り巻く最近の動向について	RPI 理事	金氏 眞
14:30～14:40	事業報告・計画	事務局長	竹田哲夫
14:40～14:50	新会員紹介	事務局長	竹田哲夫
14:50～15:00	普及委員会報告・計画	普及委員会委員長	佐藤典夫
15:00～15:10	技術委員会報告・計画	技術委員会委員長	徳山清治
15:10～15:25	(休憩)		
15:25～15:50	BMS を活用した橋梁長寿命化修繕計画 (青森県の事例)	RPI 研究委員	岩井 稔
15:50～16:25	道路施設保全業務の包括的民間委託についてー海外事例報告ー	RPI 理事	金氏 眞
16:25～16:30	閉会のあいさつ	RPI 理事	藤田耕治

平成 20 年 6 月 1 日 (日曜日)

橋 梁 新 聞

採用 BMS は青森県、茨城県、大分県、大分市、京都府八幡市などで実績があり、橋梁長寿命化修繕計画策定に活用できるため、複数の自治体の採用が見込まれている。

採用 BMS は、RPI の開発した汎用 BMS を改良しつつ、全国自治体への普及を目指して 22 社が参加。

採用 BMS は「新設から保全へ、一層の維持管理の啓蒙が必要。インフラの長寿命化は計り知れない国益につながる」と挨拶した。

BMS コンソーシアムは、RPI の開発した汎用 BMS を改良しつつ、全国自治体への普及を目指して 22 社が参加。



渡邊理事長

汎用 BMS の普及促進 BMS コンソ

大阪地域計画研究所 (略称 RPI) 理事長・

渡邊英一 京都大学名誉教授 (5月27日、第2回 BMS コンソーシアム総会を開催した。)

渡邊理事長は「新設から保全へ、一層の維持管理の啓蒙が必要。インフラの長寿命化は計り知れない国益につながる」と挨拶した。

BMS コンソーシアムは、RPI の開発した汎用 BMS を改良しつつ、全国自治体への普及を目指して 22 社が参加。

詳細㊸ : BMS コンソーシアム第3回総会

BMS コンソーシアム第3回総会プログラム

■日にち 平成21年6月12日(金)

■場 所 弘済会館(東京都千代田区麹町5-1)4階 菊東梅西の間

■スケジュール

13:30～	受付開始		
14:00～14:05	開会の挨拶	R P I 理事長	渡邊英一
14:05～14:10	新会員の紹介	事務局長	竹田哲夫
14:10～14:20	事業報告・計画	事務局長	竹田哲夫
14:20～14:35	規約改正等の報告	R P I 理事	金氏眞
14:35～14:45	普及委員会報告・計画	普及委員長	水野高志
14:45～14:55	技術委員会報告・計画 (休憩)	技術委員長	徳山清治
15:05～15:45	BMSを取巻く環境について(仮)	R P I 理事	金氏眞
15:45～16:25	大阪市の橋梁の保全計画について(仮)	R P I 理事長	渡邊英一
16:25～16:30	閉会の挨拶	R P I 理事	藤田耕治

詳細㊿：BMS コンソーシアム第4回総会

BMS コンソーシアム第4回総会プログラム

■日にち 平成22年6月9日（水）

■場 所 弘済会館（東京都千代田区麹町5-1）

■スケジュール

13:30～	受付開始	
14:00～14:05	開会の挨拶	RPI理事長 渡邊英一
14:05～14:10	新会員の紹介	事務局長 竹田哲夫
14:10～14:15	事業報告・計画	事務局長 竹田哲夫
14:15～14:25	技術委員会報告・計画	技術委員長 徳山清治
14:25～14:35	普及委員会報告・計画	普及委員長 水野高志
14:35～14:50	CTC の紹介及びBMS への取り組み	CTC 河野 憲一
(休憩)		
15:10～15:45	BMS に関するコメント	茨城大学 横山教授
15:45～16:20	青森県でのBMS4年間運用結果と実用性	RPI理事 金氏眞
16:20～16:25	閉会の挨拶	RPI理事 藤田耕治

詳細㊿：BMS コンソーシアム第5回総会

第5回総会プログラム

13：30～	(受付開始)		
14：00～14：05	開会の挨拶	R P I 理事長	渡邊英一
14：05～14：10	新会員の紹介	事務局長	竹田哲夫
14：10～14：15	事業報告・計画紹介	事務局長	竹田哲夫
14：15～14：20	技術委員会報告・計画紹介	技術委員長	徳山清治
14：20～14：25	普及委員会報告・計画紹介	普及委員長	水野高志
14：25～14：50	BMS t a r を用いたサービス業務の紹介 (休憩)	C T C	青木琢磨
15：10～15：50	講演「修繕計画の助言を通じて思うこと」	東北大学教授	久田真
15：50～16：25	講演「国内の道路等の維持管理における複数年・包括業務委託の事例」	普及委員長	水野高志
16：25～16：30	閉会の挨拶	R P I 理事	藤田耕治